

平成 26 年度第 1 回大阪府がん対策推進委員会がん検診・診療部会（概要）

1 日 時：平成 26 年 8 月 26 日（火）午後 6 時 30 分～

2 場 所：大阪がん循環器病予防センター

3 議 事

- （1）乳がんマンモグラフィ検診精度管理調査票について
- （2）乳がんマンモグラフィ設置医療機関調査について
- （3）がん検診精密検査依頼書兼結果報告書様式について
- （4）その他

4 委員等からの意見要旨及び質疑応答

（1）乳がんマンモグラフィ検診精度管理調査票について（資料 1-1、1-2）

⇒事務局より乳がんマンモグラフィ検診精度管理調査票を作成・使用してきた経緯及び調査票改訂案について説明を行い、承認を得る。

○調査集計については分析も必要。

（2）乳がんマンモグラフィ設置医療機関調査について（資料 2）

○検診推定カバー率の算定について、施設の数や実施可能数は正確だと思うが、検診対象者数の推計は正しいのか。女性の社会進出により、職場で検診や人間ドックを受診している人が相当数いると思われる。

⇒今回カバー率の算出にあたり用いた推計対象者数は、職域で検診を受ける可能性のあるものを除いた対象者数として国立がん研究センターがん対策情報センターのホームページにて公表されたもの。府内のがん検診受診率もこの数字を用いて算定している。

○日本乳がん検診精度管理中央機構の認定をとっている読影医や撮影技師が府内にたくさんいるとしても、大病院などに偏っており、そうした病院は診療が中心であることが多い。

○マンモグラフィ検査の問題と同様、視触診のできる医師の不足も大きな問題である。

○四国のある県ではマンモグラフィ単独の検診を実施し始めており、その効果も検証が得られているため、国において市町村がん検診における単独検診の実施が検討されている。

○マンパワー不足は乳がん検診だけの問題ではないが、「女性医師・技師の不足」は乳がん検診特有の問題である。不足している地域は、地区医師会や市立病院などに協力を求める、ネットワーク協議会で投げかける等、引き続き検討を行っていく必要がある。

○府の子宮頸がん・乳がんの検診受診率は全国平均よりも高くなっており府民の関心も高いと思われるため、キャパシティ不足解消のため、受け皿の確保に向けた努力をしていただきたい。

(3) がん検診精密検査依頼書兼結果報告書様式について (資料3)

(4) その他

ア 精度管理センターにおける課題取組状況について (資料4)

○検診の精度管理のみではなく、市町村がん検診の受診率向上に向けた取り組みについてもがん検診・診療部会において議論をしていくことが重要である。市町村の取り組みを分析し、情報提供をしながら受診率をあげることに力を注いでほしい。

イ 文科省がんの教育総合支援事業について (参考資料1)

以上